

江戸の庭園を偲ぶ： 古く池泉内に弁財天が祀られて 長く庶民に親しまれている



2020年7月（東京都文京区・須藤公園）

◆小さくても回遊式庭園の風情

江戸時代この地は江戸の郊外にあたり、加賀藩支藩の大聖寺藩の下屋敷で、遠く東京湾を隔てて房総半島の山々が望まれたそうです。この庭園は小規模ながら起伏に富んだ地形を巧みに活かしています。

◆買い物がえりに立ち寄りたくなる

明治維新後に長州出身の政治家の転宅となりましたが、明治22年には実業家須藤吉右衛門に渡っても、大名庭園の風趣を損なわないように永く保存されてきました。2018年にリニューアルオープンにより、これまで樹木で覆われ薄暗い印象だったのですが、今は池の周りに明るい日差しが感じられます。

岡村幸二（JRRN会員）